

地方創生をどう考える

町長 施策を検証し、チャレンジすることが求められている



山田 仁議員

人口減少の影響は

問 将来の人口減少推計値が公表されたが、当町への影響はどう考えるか。

町長

平成32年には当町の人口は13500人と想定している。教育分野や労働力確保など、影響は広範囲にわたる。

子育て支援住宅は

問 子育て支援住宅の増設の考えはないのか。

建設水道課長

核家族化の対応として、増設が良いのか、他の施策が良いのか、今後検討する。

空き家対策は

問 人口減少は「空き家」にもつながるが、その対策はどうか。

町長

危険「空き家」の対応を優先的に、遊休「空き家」については「空き家バンク」の設立に向けて検討している。

交流人口対策は

問

観光拠点施設でもある「パレス松風」の老朽化対策をどうするのか。

産業振興課長

老朽化による改修と戦略的な整備と両面で検討する必要があると考えている。

問

若鮎マラソン大会の活性化が必要ではないのか。

教育次長

参加者の意向、大会運営、経済効果など総合的に検討する必要があると考えている。

問

冬の「隠れ蕎麦」の観光などで「石臼」でひいた蕎麦でのイベントなど考えられるがどうか。

町長

良いアイデアと思う。具体的になれば、何らかの支援をしていきたい。

地方創生政策の取り組みは

問 地方創生は国策でもあり、自治体の企画力が必要と思うが当町の対応を問う。

町長

従来の施策を検証しつつ、新たなものとして果敢にチャレンジすることが自治体に求められていると認識している。



26年の出生数は84人でした